［シンポジウム 6］

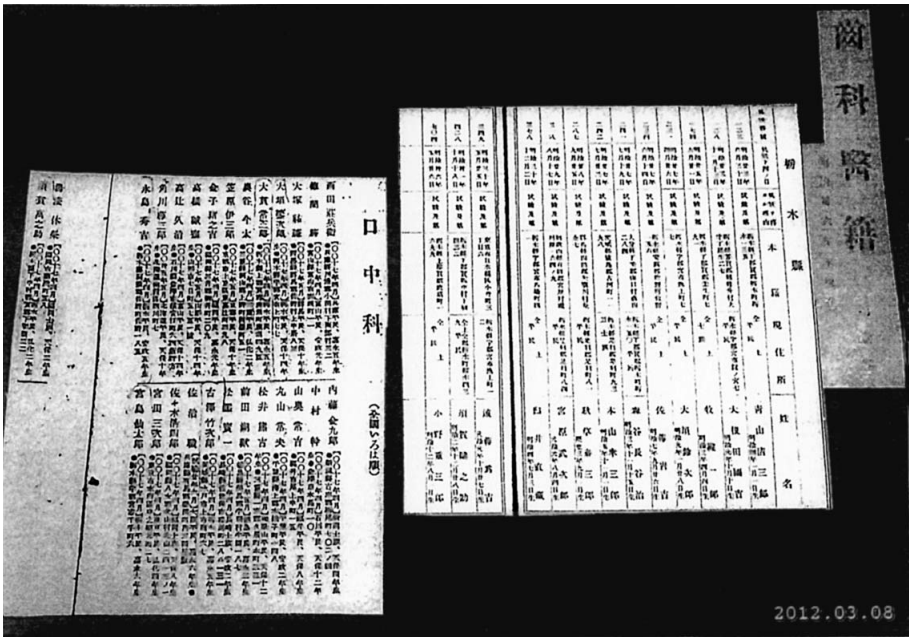
# 栃木県歯科事情

## ――栃木県歯科医師会創立まで――

牟田　紀一
栃木県歯科医師会

わが国の歯科医療は中国朝鮮から伝来した漢方医学の一分野として長い伝統をもち，14 世紀初頭に口腔疾患を専門とする口歯科が誕生．江戸時代に入ると口中科として口病，舌病，歯病，咽頭病等を含む口腔疾患を診療する口中科専門医として，徳川幕府からも世襲制をもって厚遇されたが，明治維新とともにより科学的な歯科医術が導入され，明治 17 年に口中科として一代限りの継続延長が認められ，その後衰退した．明治 42 年発行の杏林要覧口中科医籍に大垣口次郎　天保 14 年生　宇都宮市池上町 77，宮島仙太郎　嘉永 6 年生　宇都宮市千手町 6，大貫常三郎　嘉永 5 年生　鹿沼町鹿沼 495，永島秀吉　安政 5 年生　佐野町佐野 185，須賀萬之助　弘化 2 年生　栃木町初田 32，以上 5 名の県内の口中科医を確認するも詳細は不明である．

さて，わが国の近代歯科医学は明治維新という激動の世相の中，幕末から明治初期にかけて数名の外国人歯科医師によって伝えられ，彼等は診療のかたわら歯科医師を志す若者を育成した．明治 10 年代から 30 年代にかけてそれら若者の中から留学し，特にアメリカで学んだ者達がわが国の歯科教育機関の創設と歯科医師養成の先駆者となり，明治 23 年わが国最初の歯科教育機関高山歯科医学院が設立された．また明治 17 年には医籍と歯科医籍の分離，翌 18 年には医術開業試験が実施され，国民のための歯科医療が全国的な展開をみることになる．因みに歯科医籍第 1 号は明治 17 年 10 月 30 日登録青山千代次である．このような状況のもと歯科医師の組織的団結の必要性から明治 21 年に東京府内の歯科医師 40 余名が歯科談話会を結成，これを全国組織にすべく呼び掛けを重ね，日本歯科医会を設立した．明治



35年には全国に歯科医師数（歯科医籍）600名を越え，明治36年この日本歯科医会を発展的に解散し，全国20府県から114名の歯科医師が東京に集い，大日本歯科医会を創立，ここに始めて歯科医師の大同団結がなり，この団結力が歯科医師の身分の法制化をはじめ政治力としても発揮され，明治39年10月歯科医師法が制定公布され歯科医師という職業が正式に誕生し，翌明治40年大日本歯科医会は日本聯合歯科医会を改称され，この会が今日の日本歯科医師会の前身となる．明治39年発刊大日本歯科医会歯科医籍録によれば県内の歯科医師数は14名が確認出来る．

青山清三郎　明治4年1月1日生，明治23年開業試験合格をもって6月30日付歯科医籍第123号をもって登録，現住所栃木町栃木135
県内初の19歳と6ヶ月若き青年歯科医師の誕生である．

次いで明治23年11月には歯科医籍第128号の大根田国吉，宇都宮市釼之宮，その後に続く者として明治25年壬生町牧鍵一郎，明治27年宇都宮市大垣鈴次郎，佐野町に佐藤岩吉，栃木町森谷長谷治，足利町本山幸三郎，明治28年足利町秋草泰三郎，翌29年足利町宮原武二郎，明治30年宇都宮市臼井直蔵・遠藤為吉，明治31年栃木町須賀健之助，明治34年足利郡北郷村岩下専造，そして明治36年鹿沼町小野重三郎等が資格を得て，明治39年には，これら14名の歯科医師が診療に従事したものとうかがえ，同年歯科界の動向に対応して内務省令第33号医師会規則に基く会の設立を申請し，これが正式に認可を得ることになる．当然前記の14名の歯科医師が中心となり，待望の栃木県歯科医師会の誕生である，時に明治41年10月27日記念すべき創立総会が開催され初代会長に大根田国吉が選出された．